



C.COM

2023.Jul vol. 88

平和とより良き生活のために
広島県生活協同組合連合会

平和について考える

～市民社会のエネルギーが地域で連携し、県内各地で
“草の根活動”として広がることを願う～

一滴のしずくがやがて大河となる（一継承と創造一）

2022年2月24日、ロシア軍は一方的にウクライナに侵攻しました。その際、プーチン大統領は「現在のロシアは世界最強の核大国の一つで、最先端兵器でも一定の優位性を保っている」と発言しました。まさに、ロシアは核兵器による脅かしを盾に、通常兵器による侵攻を続け、一般市民への無差別爆撃を繰り返しています。国際刑事裁判所（ICC）はこのような残虐な攻撃や1万6千人余の子ども移送問題などに対し“戦争犯罪”と断定しプーチン大統領に“逮捕状”を出しました。

ロシアが盾にしている核兵器は未だ12,500発余世界に存在します。核戦争がひとたび起これば、破局的な災厄と破壊がもたらされ、国境を越え人類の存亡に深刻な影響を与えます。よって、核兵器を戦争や恫喝の手段にすることは人類に対する最大の犯罪です（「核抑止を超えて」一湯川・朝永宣言 1975 年）。

核軍縮が停滞している現段階、ウクライナ戦争を機に国際社会は「抑止力」を根拠に、軍備増強と軍事的安全保障の枠組みへと一息に舵を切りました。抑止論は“脅かしの論理”ゆえ、一方が力を持てば、他方を刺激して、果てしない軍拡競争を繰り返します。巨額なお金を投入して、非人道的で人類と共存できない「絶対悪」の核兵器に未来を託するの

か？ それとも戦争も核兵器もない平和な世界を実現し次世代へ継承するのか？ 今私たちは大きな岐路に立たされています。そのような中、2021年1月、核兵器禁止条約が発効され、同年6月に第1回締約国会議が開催され「ウーン宣言」（核兵器なき世界への誓約）が採択されました。



広島県生活協同組合連合会
会長理事 岡村 信秀

国際法としての核兵器禁止条約の発効は、被爆者や国際 NGO などの長年にわたる献身的な活動と非核保有国の人道的立場に立った粘り強い平和外交の結実といえます。世界の為政者は、これまでの核抑止力にもとづく「国家の軍事的保障」の考え方から脱却し、人道的立場に立った「人類全体の安全保障」にもとづく平和外交アプローチへ転換することが求められます。すなわち粘り強い対話外交は時間と労力を要しますが、核兵器ゼロへの道はこの方法しかありません。

そのためには、市民社会の高揚と世論形成が不可欠です。サーロー節子さんは「情と理を持ち合わせた人間は道徳的見地から“行動”しなければならない時がある。私たちは将来の世代に安全で公正な

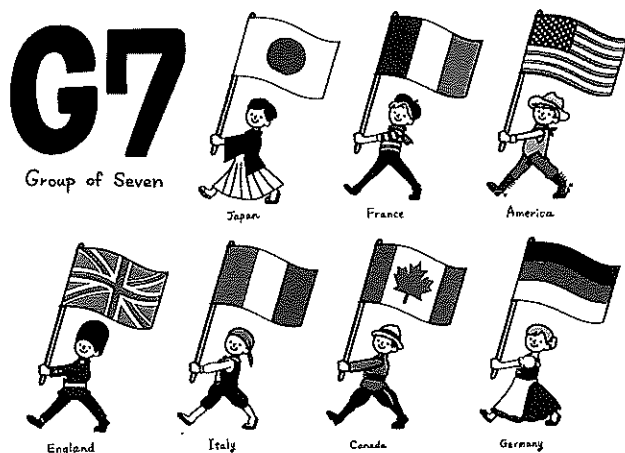
世界を残すため、核兵器を廃絶する道徳義務を負っています」と著書「光に向かって這っていけ」（2019、岩波新書）で述べています。

戦争や核兵器から開放され、誰もが安心してらせる「平和な世界」の実現に向け、一人ひとりの市民が主体的に関わり創っていくことが今一番求められます。“一滴のしずくがやがて大河となる”がごとく、この市民社会の大きなうねりが自国の為政者や国際社会のリーダーを動かすエネルギーにつながると確信します。

被爆者団体を含む市民団体は2018年3月、81団体の賛同を得、「ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会」を立ち上げ、83万筆余の署名を集めました（2021年1月に国連へ提出）。今後は、この81団体のエネルギーが地域で連携し、県内各地で“草の根活動”として広がること

を願っています。

今年G7サミットが被爆地ヒロシマで開催されました。広島サミットに参加した世界のリーダーは被爆の実相に触れました。ヒトは変わることには希望をもち、今後の政治行動に反映することを期待します。



首脳たちへの問い、これから始まる

かなり以前、道の駅で「〇〇に行ってきました!」という包装紙のお菓子を買ったことがあります。「〇〇」はその土地の名。後日、本紙で活動する子ども記者が旅行土産に「△△に行ってきました!」を持ってきてくれました。箱の中のクッキーは全く同じ。笑いながら、おいしくいただきました。

5月19日から3日間、広島市で先進7カ国首脳会議（G7サミット）が開かれました。首脳たちは「広島に行ってきました!」を持ち帰ったけれど、肝心の中身は広島訪問前からの「核依存」のまま。特に19日夜に「広島ビジョン」の発表を取材して以来、そんな思いを強めています。

サミットでは初の核軍縮に特化した合意

文書という意義はありますが、評価すべきはあくまで内容です。

第1段落で「広島に集った」とうたいながら、原爆資料館の見学や被爆者との面会、そこで感じたことには触れていない。2段落目で早々に、ロシアを非難しながら「我々の安全保障政策は、核兵器は、それが存在する限りにおいて、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、並びに戦争及び威圧を防止すべき」と明言しました。



中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター
センター長 金崎 由美

自国の核兵器は抑止力として役に立つと、「広島」の名で合意したのです。しかも表現は、先だって長野で開かれた外相会合と同じ。4ページにわたる日本語訳は、末尾で世界の指導者や若者の被爆地訪問を促しているものの新味はなく、この一点で文書全体を前向きに評価するのはさすがに苦しい。

そもそも、毎年開かれる核依存国の集いに何かを求めることは的外れだったのでしょうか。歓迎機運だけでよかったのか。決してそうではないはずです。

個人的な話にそれますが、北海道にある私の実家は、2008年の北海道洞爺湖サミットの会場から直線距離で30キロほど。一帯はホタテ、毛ガニ、たらこ、牛乳、アスパラガスなどの産地で「味なもてなし」も豊富です。しかし昨年からは広島市内で私と同居する母は、「サミットの注目度は15年前と全く違う」と驚いていました。

人口密集地での開催という事情はあるものの、「世界のヒロシマ」はそれだけ重い。

そして広島の世界化を担ってきたのが、核と戦争の悲惨さを告発と対話、連帯で伝えてきた被爆者と市民です。戦後一貫して原爆被害を過小評価してきた日本政府ではありません。

サミットに際して、市民から首脳たちへの提言や要請がさまざまになされました。提言に直接関わらなかった市民も関心を持ったはず。それ自体が今後の財産です。核兵器廃絶という目標に照らし、国家の論理にとらわれない抗議や批判、ポジティブな提案や足元からの活動を発信していくことの全てが、広島が「世界のヒロシマ」であり続けるため必要です。

カナダのトルドー首相は、広島滞在中に原爆資料館を再訪しました。就任以来、被爆者サーロー節子さんからの面会要請を拒み続けていますが、どうなるか。誇らしげに持ち帰った「広島に行ってきました!」の箱の中身は、どの土地でも買える菓子のままでしょうか。日本を含めた全首脳に問うていかなければなりません。



2023「戦争も核兵器もない平和な世界を」 市民の集い アピール

たった1発の原爆による傷跡は78年が過ぎた現在においても消えることなく多くの苦しみを生み続けています。「戦争も核兵器もない平和な世界を実現する第一歩は原爆被害の実態を直視すること」です。

5月、G7広島サミットが開催され、核保有国を含む多くの首脳がヒロシマを訪れ、被爆者と懇談し、広島平和記念資料館を視察、原爆死没者慰霊碑に献花しました。貴重な一歩であったことは確かです。しかし、G7首脳が発出した「広島ビジョン」は、「核兵器のない世界」を言葉では言っていますが、それは「究極の目標」と位置づけられ、核兵器は「侵略を抑止し、戦争と威圧を防止する」と、「核抑止力」論を公然と宣言されています。このことは、被爆者と被爆地にとってはたいへん残念であり、許すことはできません。引き続き、核抑止からの脱却を訴え、今後の動きを注視していく必要があります。

被爆地ヒロシマで活動する私たちは、核兵器禁止条約を支持し“日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める”署名活動を続けています。被爆者は“自分が体験したあの地獄のような苦しみを他の誰にも味わわせたくない”という強い意志をもち活動を続けています。これからも原爆被害の実相を次の世代に継承し、人道的立場に立った協調的な世界秩序を取り戻すため連帯を強めていきたいと決意しています。

引き続き地域の中で多様な団体や行政と連携し、大きなエネルギーを形成することが課題です。私たちの地道な草の根の活動の積み重ねとエネルギーが大きな世論を形成し、自国の為政者や国際社会のリーダーを動かすことにつながると確信いたします。

本日、ここに集まった私たちは、「戦争も核兵器もない平和な世界の実現」を誓い合い、以下アピールします。

記

1. 私たちは、ロシアによるウクライナ侵略に強く抗議し、ただちに停戦し、戦争の犠牲になっている方への人道的支援を求めます。
1. 私たちは、核兵器保有国を含むすべての国が核兵器禁止条約を批准し、核兵器のない平和な世界を実現するために、唯一の戦争被爆国である日本がそのリーダーシップを発揮することを求めます。
1. 私たちは、被爆地ヒロシマで活動する市民として、人道的アプローチにより、被爆者とともに、市民社会の活動を推進します。

ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャ、ノーモア・ウォー
青い空のもと、子どもたちの笑顔が溢れる未来をいっしょに実現させていきましょう!!

2023年6月7日
「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い

核兵器廃絶に向けて市民団体が結集!



2023「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い開催

6月7日に2つの広島県原爆被害者団体協議会、広島YMCA、広島県地域女性団体連絡協議会、広島県青年連合会、広島県生協連合会の6つの市民団体が、2023「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いを開催しました。

この集いは13年前から毎年開催しています。会場の広島平和公園に隣接する「おりづるタワー」に、被爆者や生協、行政、市民団体の代表者が集まり、実参加64名、オンライン約36名（会場複数参加含む）で首長はじめとした自治体関係者、広島県外の生協組合員、役職員、6団体の会員など約100名が参加しました。

はじめに、主催者を代表して岡村 信秀広島県生



＜湯崎英彦広島県知事＞

協連会長理事から挨拶がありました。続いて、湯崎英彦広島県知事は、ビデオメッセージの中で、当イベントが毎年開催されていることについて関係者に敬意を表されるとともに、5月に開催されたG7広島サミットにおいて、G7首脳らが被爆の実相に触れ、世界に向けて平和のメッセージを発信したことなどにより、核兵器廃絶の機運が高まったとして、「広島県は引き続き、核抑止に依存しない安全保障政策づくりや、核兵器廃絶を国連の次期開発目標に設定することを目指した取組を行ってまいります」などと述べられました。

元毎日新聞記者でジャーナリスト小山 美砂様の特別講演では「原爆被害の直視からはじめよう」と題し、原爆取材を始めた理由から「黒い雨」とは？取材を進める中で多くの被爆者の方からの証言や線引きによる分断、住民運動の始まり、2015年の

訴訟開始からはじまり、2020年の勝訴～2023年の現状（申請後の却下198件）について原爆被害を直視することから始まることを訴えられました。

続いて、広島医療生協「黒い雨プロジェクト」生協本部健康まちづくりセンター 中島 常課長より活動報告がありました。「被爆者」の範囲とは「黒い雨のプロジェクト」発足や活動、相談会の開催、広島県・国に対する要請活動及び今後の課題について約50年に渡る、地域課題の解決に向けて力を合わせて取り組む意義など報告がありました。

広島県原爆被害者団体協議会 佐久間 邦彦理事長よりG7広島サミットを振り返って、感想を述べられ、また、黒い雨被害者援護の取り組みについて活動報告がありました。



＜広島県被団協 佐久間理事長＞

最後に、ロシアによるウクライナ侵略への抗議、核兵器のない平和な世界の実現、被爆者とともに、市民社会の活動の推進などを盛り込んだアピール文を、広島県地域女性団体連絡協議会 弓場 美代会長から読み上げました。会場参加者、オンライン参加者も含め全員で確認し、「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現に向けて、市民レベルで行う平和活動を強化して、市民の世論形成を高めていくことを確認しました。



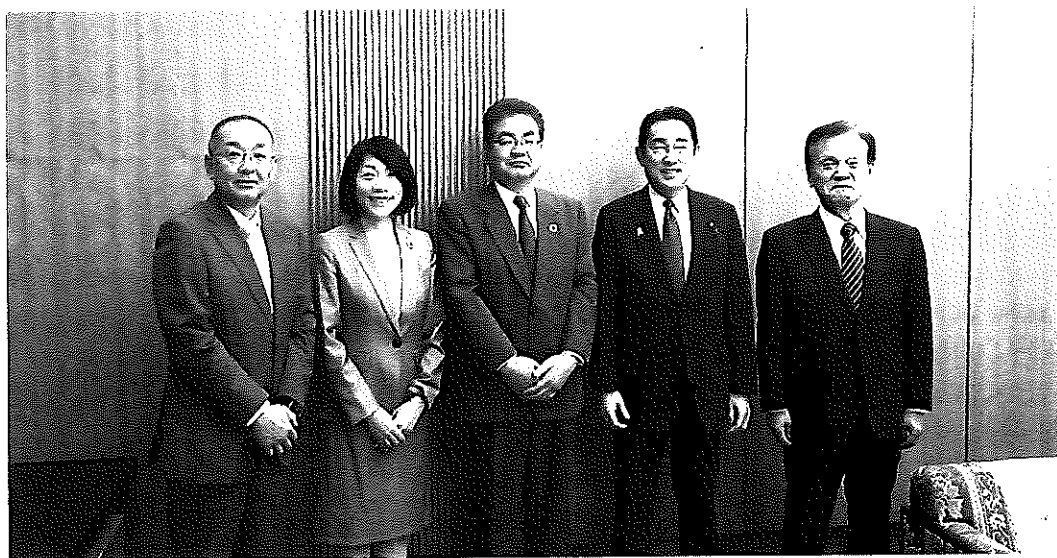
＜ジャーナリスト 小山美砂氏＞

岸田文雄総理大臣と広島県生協連、 日本生協連が懇談しました

6月26日、首相官邸にて広島県生活協同組合連合会岡村信秀会長理事や、日本生活協同組合連合会土屋敏夫代表理事会長、新井ちとせ副会長、嶋田裕之代表理事統括専務、とともに岸田文雄内閣総理大臣を訪問し、懇談しました。

広島県生協連からは県内での消費者問題への取り組みや平和の活動、災害時の被災者支援の取り組みと行政との連携などについて報告し、日本生協連からは全国の生協の事業概況や、子どもの貧困、平和、環境・サステナビリティ、国内の協同組合間連携、国際協同組合同盟の活動への参画などの社会的取り組みについて報告。岸田総理大臣と意見交換をしました。

多忙な岸田総理大臣ですが、予定の時間を超えるほど、しっかりと聞いていただき、生協の活動を理解していただくことができました。



<右から、広島県生協連岡村会長、岸田総理大臣、日本生協連土屋会長、新井副会長、嶋田統括専務>



<懇談の様子>

「県民の健康寿命延伸を目指して！ けんこうチャレンジ 2023」がはじまります

広島県生協連と生活協同組合ひろしま、広島県農業協同組合中央会、広島中央保健生活協同組合、広島医療生活協同組合、福山医療生活協同組合で実行委員会を構成し取り組んでいる「けんこうチャレンジ 2023」が7月からスタートし、県内6,000名の参加者を目指して取り組みます。

7月のスタートを前に、健康づくりに皆で楽しく一緒に頑張ろう！と「けんこうチャレンジ 2023 はじまるよ！交流会」を6月27日（火）生協けんこうプラザにて開催し、57名の方が参加しました。

記念講演では広島県健康福祉局健康づくり推進課 島谷道子主査（管理栄養士）から、広島県の男性の平均寿命は全国8位（81.95歳）、健康寿命は全国19位（72.71歳）、女性の平均寿命は全国7位（88.16歳）、健康寿命は全国43位（74.59歳）であり、平均寿命と健康寿命の差（男性であれば9.24年、女性は13.57年）が要支援・要介護といった日常生活に何らかの不自由や制限がある状態になります。この期間を短縮し健やかな老後を過ごすために、健康寿命を延ばす取り組みとして、広島県では健康ひろしま21（第2次）広島県食育推進計画（第3次）の重点目標で、1日の食塩摂取量の減少（8g）、野菜摂取の増加（350g）、毎日朝食を食べる県民の割合の増加（85%）を掲げて取り組んでいると説明がありました。減塩等の取り組みを進めるために、各食品に表示されている栄養成分表示の見方等について解説があり、野菜摂取量については、当日参加者が会場で実施した「ベジチェック」（センサーに手のひらを押し当てて皮膚のカロテノイド量を測定することで野菜摂取レベルを測定する装置）の結果について助言がありました。ベジチェックを実施した参加者からは、「野菜を摂取しているつもりだったが、まだまだ足りないことが分かった。けんこうチャレンジをキッカケに食生活を見直して、旬の野菜をしっかり食べたいですね」と決意が語られました。

各共催団体からの実践報告では、昨年以降、継続して取り組んだ健康づくり（オーラルフレイル予防）の成果や、新型コロナウィ



会場ではベジチェックを実施しました



記念講演 広島県健康福祉局 島谷道子 主査

ルス感染症拡大の中でオンラインツールを活用した健康体操の取り組み、サロン等での認知

症予防の取り組み、子ども食堂のニーズに対して生協組合員が生協店舗で商品を購入し支援する取り組みが報告されました。また食農クイズでは、野菜の栄養価や広島県の食糧需給率などのクイズがあり、島谷道子主査の講演にもつながる内容で「健康づくりと食糧需給率アップのためにも地産地消、県産野菜をしっかりと食べます」といった感想がありました。

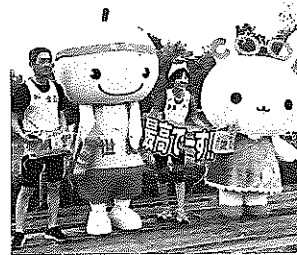
けんこうチャレンジ 2023

- けんこうチャレンジの目的
広島県民が楽しみながら気軽に健康づくりの習慣を身につけ、生活習慣を見直す機会として健康寿命を延ばす取り組みにしています。
- けんこうチャレンジ 2023 は 17 項目のチャレンジコースの中から自分に合ったコースを選択し、記録を付けます。この企画を通じて生活習慣を見直し、健康づくりの習慣を身につけます。小学生以下を対象とした「きっずチャレンジ」や親子で取り組む「親子チャレンジ」企画も開催しています。
- 取り組み期間：7月～10月の内 30日間又は60日間
- きっずチャレンジは30日間
- 報告カード締め切り：11月30日
- どなたでも参加できます。報告カードご提出の方から抽選で記念品をプレゼント

自治体とスポーツイベントを共催 生協ひろしま

生協ひろしまと世羅町が締結している包括的連携協定の項目である「地域活性化」の具体的な取り組みとして、2023年5月14日（日）、世羅町のせら夢公園で「第2回コープファミリーレーマラソン in せら魅力まつり」を世羅町と共催で開催しました。大会には140チーム、1,100名のランナーが参加し3時間の耐久レーマラソンにチャレンジしました。会場内には地元世羅町のグルメや特産品など多数出店した「せら魅力まつり」も同時開催され、選手を含む約3,000人がイベントを楽しみました。世羅町では2022年12月に鳥インフルエンザが発生し、

鶏卵業などに大きな影響がでています。イベントを通じ、地域の活性化と「つながり」、「健康」という生協ひろしまの新しい価値の創造につなげていきたいと思っています。



2023 ピースアクションinヒロシマ

未来につなぐヒロシマの心〜被爆 78 年戦争も核兵器もない世界を〜

参加費無料 申込は不要
当日ご自由にご参加ください

虹のひろば

8月5日(土)

8月6日(日)を前に平和について聞き、体験し、
一緒に考えてみませんか

会場 広島県立総合体育館 (グリーンアリーナ)

第1部 13:30 ~ 15:30

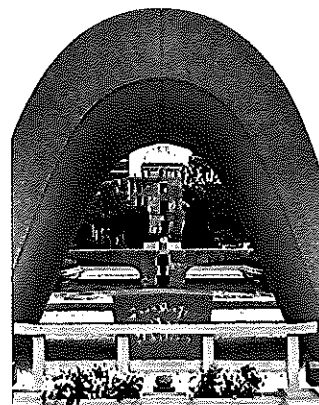
【オープニング】 合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」
【被爆の証言】 広中 正樹さん
【原爆の絵】 被爆者と基町高等学校生徒の共同制作
【県内高校・大学生の取り組み紹介】
私立崇徳高校新聞部 平和担当班
広島市立大学 ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズ (朗読)

第2部 15:30 ~ 16:30

みんなのひろば

安田女子大学 書道学科による大書パフォーマンス

原爆パネル・原爆の絵展示、平和の折鶴選別体験など
全国の生協、各団体が参加し、展示・交流



主催：日本生活協同組合連合会 広島県生活協同組合連合会 ※開催内容や登壇者(団体含む)の予定者が変更になる場合もありますのでご了承ください。

2023 ピースアクションinヒロシマ

分科会 8月4日(金)

会場① (定員 各 180名)

合人社ウェンディひと・まちプラザ
北棟 5F 研修室
14:00 ~ 15:00
【室内碑めぐり】
碑めぐりガイドによる遺構・慰霊碑を学習
碑めぐりガイド代表 新谷 美樹子さん
16:00 ~ 17:30
【被爆の証言】
広島県原爆被害者団体協議会 理事長
佐久間 邦彦さん

会場② (定員 各 112名)

合人社ウェンディひと・まちプラザ
北棟 6F マルチメディアスタジオ
14:00 ~ 15:00
【被爆体験詩の朗読会】
演劇集団「ふらっと」による
被爆体験詩の朗読
16:00 ~ 17:30
【平和講演】
生協が取り組んできた平和活動
広島県生活協同組合連合会 代表理事会長
岡村 信秀さん

会場③ (定員 各 96名)

広島テレビ コンベンションホール
1F 広島テレビホール
14:00 ~ 15:00
【被爆の証言】
広島被爆者団体連絡会 事務局長
田中 聡司さん
16:00 ~ 17:30
【デジタルアーカイブを活用した平和の継承】
CO・OP PEACE MAP 等の説明
東京大学大学院 渡邊 英徳教授



※分科会には定員があります。お申込みの際に上限を超えた場合はお断りする場合がありますのでご了承ください。

2023 市民平和行進 (参加申込不要)

日時
8月4日(金) 10:00 ~ 12:00

出発式: 10:00 ~ 10:20
場所: アリスガーデン
・主催挨拶、組合員メッセージ

行進スタート: 10:30 ~
本通りアーケードを行進

↓
広島平和記念公園 慰霊碑に献花

↓
供養塔前に移動

集結式: 11:20 ~ 12:00
場所: 広島平和記念公園
(供養塔前)
・主催者挨拶、子どもメッセージ
被爆ピアノミニコンサート

主催: 2023 市民平和行進広島県連絡会
(6団体)

お問い合わせ 広島県生活協同組合連合会 TEL: 082-532-1300
Email: kenren.h@proof.ocn.ne.jp

2023 年度通常総会 開催報告

2023年6月21日(水)、ワークピア広島にて2023年度通常総会を開催しました。全議案承認され、滞りなく終了しました。

【議案】

第1号議案：2022年度活動報告ならびに決算報告承認と剰余金処分案承認の件

第2号議案：2023年度活動方針ならびに収支予算案決定の件

第3号議案：役員選任の件

第4号議案：役員報酬決定の件

<2023年度役員体制>

県連役職	名 前	所属生協・役員等
代表理事会長	岡村 信秀	員 外
代表理事副会長	難波 隆宏	広島県学校生活協同組合 理事長
常務理事	杉田 和正	広島県労働者共済生活協同組合 専務理事
常務理事	長谷川 英男	広島修道大学生生活協同組合 専務理事
常務理事	田中 敬子	広島中央保健生活協同組合 専務理事
常務理事	箱崎 弘	日立造船広島生活協同組合 専務理事
常務理事	重信 均	生活協同組合ひろしま 常勤理事
理 事	金築 英司	グリーンコープ生活協同組合ひろしま 専務理事
理 事	乃美 康志	福山医療生活協同組合 専務理事
理 事	賀楽 幸利	竹原生活協同組合 理事長
理 事	片岡 路子	広島中央保健生活協同組合 常務理事
理 事	信野 哲三	広島医療生活協同組合 専務理事
理 事	岩永 昌子	生活協同組合ひろしま 理事
理 事	宮川 哲二	三共生活協同組合 理事長
理 事	塩崎 昌哉	広島大学消費生活協同組合 専務理事
理 事	宮島 直哉	広島県高等学校生活協同組合 専務理事
理 事	大内 佳子	生活協同組合ひろしま 理事
監 事	花田 俊哉	広島医療生活協同組合 常務理事
監 事	塩道 琢也	生活協同組合連合会 コープ中国四国事業連合 専務理事

2023年度 通常総会

広島県生活協同組合連合会



広島県生協連 第1回組合員・役職員研修会を開催！

6月21日(水) 総会終了後、2023年度第1回組合員・役職員研修会を実施参加53名、オンライン参加5名で同会場にて開催しました。

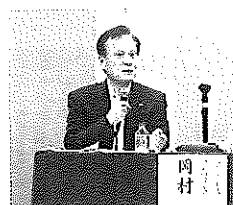
全体テーマ「協同組合員間連携による地域包括ケアシステムの確立に向けて」と題して

三生協連携協議会より3年間取り組んだコンサルティングの総括及び4生協によるパネルディスカッションを行ないました。

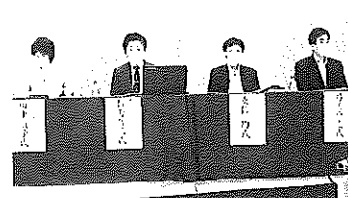
コンサルティングの総括報告では、三生協連携協議会を代表して広島中央保健生協 介護事業部 事務長 田頭嘉直氏より「安心して下さい！ 再期まで支えますよ」をテーマに私たち共通のケアのありかたを考え、取り組んだ3年間について報告がありました。また、トップスタディ研修から事業の有りかたを語り合い、なぜ今始めるのか？など視察を行った社会福祉法人協同福祉会の大國常務理事からコンサルを受け学んだ事などの報告がありました。併せて、10の基本ケアについて事例を含めてお話しいたぎ、参加者一同、学びました。



広島中央保健生協 田頭事務長



コーディネーター
岡村会長理事



パネリスト(左より)

広島中央保健生協 田中専務理事
広島医療生協 信野専務理事
生協ひろしま 重信常勤理事
福山医療生協 乃美専務理事

続いて、各生協の総括・今後の取り組みについて4生協の理事によるパネルディスカッションが行われ、コーディネーターを広島県生協連合会 岡村信秀会長理事が務めました。登壇者の自己紹介を含めて、各生協の福祉介護事業の取り組みや現状の課題などを中心に報告がありました。

報告後、意見交流や質疑があり、今後の到達点について広島県全体で行政や協同組合との連携、連帯を強め、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに貢献する活動を推進していくことを確認しました。

広島県からのお知らせ

今夏の節電対策をご紹介します!

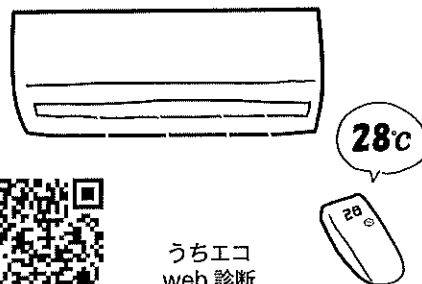
暑い夏がやってきました。節電は熱中症に気を付けながら、できる範囲で工夫して行いましょう。夏に電力消費の多い家電は、エアコンや冷蔵庫です。

◎こんな方法で節電を!

- エアコンのフィルターは月に1回か2回を目安に清掃する。
- すだれやよしず、カーテンで窓からの日差しを遮る。
- 冷蔵庫の設定を強から中にしたり、ドアの開閉を少なく短時間にする。

古いエアコンや冷蔵庫は最新の省エネ型に変えたり、窓や壁の断熱リフォームをするのも省エネ・節電の方法の一つです。

ご家庭に合った具体的な節電アドバイスが受けたい方は、「うちエコ web 診断」も利用してみてください。(無料)



うちエコ
web 診断

～ひろしまクールシェア～

夏季の省エネ対策のひとつとして、7月22日から開催中!

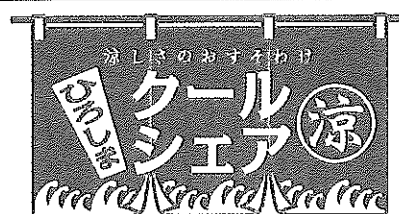
この事業は、県民の皆様が家庭のエアコンを消して、県内の商業・公共施設にお出掛けいただくことで、家庭の電力使用量を削減し、省エネに繋げていく取り組みです。お得な施設特典の紹介ほか、抽選でQUOカードPay1,000円分が当たる企画を実施中!是非ご応募ください。

詳しくは

ひろしまクールシェア で検索



ひろしま
クールシェア



お問い合わせ

広島県 環境政策課 082-513-2913

適格消費者団体NPO法人消費者ネット広島からのお知らせ

「消費者トラブルの手口を知りましょう」②

エステやスポーツジム契約解除に関するトラブルが後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないように、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

これって解約できますか?エステや語学教室等の契約での注意点!

相談内容

1年前にエステ店で、契約期間が1年半、回数が18回のフェイシャルエステコースの契約をした。おすすめされた化粧品も3本同時に購入した。その後1年経過したが、仕事が忙しくなって、2回しかエステを利用できていない。そのため、解約したいとお店に申し出たところ、「コースの一部を消化しており、途中での解約・返金は一切できない。」と言われた。残り半年で16回通うのは無理なので、解約して返金してもらいたいが無理だろうか。
(20歳代 女性)

アドバイス

相談者には、当該契約は特定商取引法に定めがある特定継続的役務提供契約であり、契約期間内であれば、中途解約可能な契約であることを説明しました。事業者に対し、一定の違約金を支払うことで中途解約することができるので、書面等を出すよう助言しました。

○長期間にわたる契約は、解約しなければならないときも想定して慎重に。

長期間にわたってサービス提供を受ける契約は、契約後に自分に合っていないかった、事情が変わって通えなくなったなど、途中で解約せざるを得ない状況になるかもしれません。解約条件をよく確認しておくなど慎重に検討しましょう。

○一定の条件を満たせば、クーリング・オフや中途解約ができます。

契約金額が5万円を超え、かつ一定の期間を超えるエステや語学教室などの契約は、契約書面の受領から8日間はクーリング・オフにより契約解除ができます。また、契約期間内であれば理由を問わず、一定の違約金を支払って中途解約ができます。

○解約できるケースが分からないとき、トラブルになったときは、すぐに消費者ホットライン(☎188)にご相談ください。

相談員が契約の種類・条件などに応じて、トラブル解決のための助言などを行います。気軽に相談してください。

(ここに紹介する相談事例は一つの参考例です。同じような商品・サービスに関するトラブルであっても、個々の契約などの状況などが異なれば、解決内容も違ってきます。)

(広島県生活センター発行 くらしのフレッシュ便 令和5年7月号より)



<受賞歴>

・広島市民賞受賞 2005 年
・広島ユネスコ活動奨励賞受賞 2009 年
・第 25 回谷本清平和賞受賞 2013 年
<出版物>
・和英対訳「ヒロシマ事典」1985 年
・和英ガイドブック「ヒロシマ・アテンション・プリーズ」英語名 [Hiroshima Attention Please] 1991 年 (Attention Inc.)
・英和対訳 HIP の「平和公園ガイド」2005 年
・和英対訳「英会話しながら広島ガイド」HIP's Hiroshima Guide 2016 年
・「戦後広島の見聞と記憶 上・下」(夫小倉馨のロベルト・ユンク宛書簡集編集) 2018 年 (名古屋大学出版会)

小倉桂子 おぐら・けいこ

1937 年 広島市で生まれる
1945 年 8 月 6 日 8 才の時に爆心地より 2.4 キロの広島市牛田町で被爆
1959 年 広島女学院大学英文学部卒業
1980 年 夫、小倉馨の死後、海外からのメディア、作家、映画製作者などの通訳・コーディネートを始める
1983 年 ドイツ、ニュルンベルグで開催された「反核模擬法廷」で原爆投下の証人として被爆体験証言
1984 年 「平和のためのヒロシマ通訳者グループ」 Hiroshima Interpreters for Peace 設立
1987 年 第一回核被害者世界大会 9 月 26 日～10 月 3 日 (ニューヨーク) スタッフとして参加、証言
1990 年 株式会社アテンション設立。(通訳・翻訳・出版)
1992 年 第二回核被害者世界大会 9 月 20 日～25 日 (ベルリン) スタッフとして参加、証言
2003 年 ワシントンのスミソニアン博物館で B29 エノラ・ゲイと対面。ヨークで 9.11 の遺族と対話(坪井直の通訳として同行)
2010 年 第 28 回 OB サミット広島 InterAction Council 世界各國の首相・大統領経験者による会議で英語による被爆体験証言
2011 年 広島平和文化センターにより被爆体験証言者として委嘱、登録。英語による被爆体験証言開始
2014 年 NPDI 広島開催の外相会議に出席の外務大臣、関係者に被爆証言を英語で行う。
2016 年 カリフォルニア州クレアモント、ボモナ大学で広島講座。合衆国議会とクレアモント市から表彰
2017 年春 ニューヨーク大学で R・リフトン教授と「戦争とトラウマ」に関するトークセッション
2017 年秋 オハイオ州ボーリンググリーン州立大学でサーロー節子氏とピースセミナー
2017 年秋 ニューヨーク州セラキウス大学で 10 日間の広島講座
2018 年春 ボストン地区の 3 校 (ハーバードケネディ、MIT、フレチャーズ (タフツ) 大学院) で広島講座。
2022 年 5 月 広島を訪れた EU ミッシェル大統領に対面し被爆証言を行う。
2022 年 9 月 アイダホ大学「ヒロシマを忘れない」"Remembering Hiroshima" 基調講演

G7広島サミットを振り返って

ヒバクシャにしか伝えられないことをしっかりお話することが私に与えられた使命。

首脳たちに話したこと

G7広島サミットでは、G7の首脳だけでなく 9 か国の首脳や国際機関の代表も原爆資料館を訪問しました。世界の首脳陣が一堂に会する前でお話する機会はなかなかありません。けれども証言する時間は限られていたため、いろいろ考えた結果、通常兵器と核兵器の違いを伝えようと思いました。

原爆資料館に展示されているさまざまな写真やデータは、原爆のすさまじい威力、惨さを見せつけ、私たちに核兵器の恐ろしさを無言で伝えてきます。でも恐怖はこれだけではないのです。それはここには展示されていない被爆者たちが長い間苦しんだ目には見えないトラウマや心の傷、終わることのない放射能による死への恐怖と不安なのです。これが通常兵器と核兵器の違いです。

いつまで苦しみが続くのか、治るのか、誰に聞いても答えてくれない。でも本当は答えないんじゃないかと、誰もわからないのです。私が 8 歳で被爆したとき一番感じたショックはそれでした。

核兵器というものは心の底にじわじわと不安を植え付けてきます。いつなにか起こるかわからない。その象徴が佐々木禎子さんですよ。当時私は 8 歳の小さな子どもでしたが、不安を感じる気持ちは十分理解していました。禎子さんの感じた不安と恐怖。そして禎子さんのお母さんの気持ち…。自分の子どもがあるとき突然亡くなるなんて…。当時ヒロシマにはそんな思いを抱えた、たくさんのお母さんお父さんがいました。どんな気持ちだったと思いますか。大切な人が突然いなくなる恐怖を伝えなければ…。

禎子さんの苦しみと放射線の恐ろしさを今回のサミットでお話ししようと思った。

ゼレンスキー大統領に話したこと

ウクライナのゼレンスキー大統領を前にしたとき、私はウクライナの現状を思い、泣きそうになりながら話をしました。きっと彼も泣くのを堪えていらっしゃるのだと思いながら。

佐々木禎子さんの話をしました。これが最後まで生き残った禎子さんが折った鶴ですよ。次に私の話をしよう、ホワイトパノラマ(注:当時の広島を再現した模型に原爆投下前後の上空からの映像を投影。街が一瞬で破壊されたことを表している)の前に行きました。原爆が投下されたとき、「私はここにいました、一晩で広島が消えました。怪我をした人たちが押し寄せました」と証言しました。ゼレンスキー大統領は何もおっしゃらない。声が出ないということじゃないでしょうか。何もおっしゃらなくて厳しい顔をしたまま立ち尽くしていらっしやいました。きっと、たくさんの人々が亡くなることの、たとえような悲しさを、ご自分の国と重ねて思っただけなのだと思います。ずっと何もおっしゃらず、たまらない顔をしていらっしやいました。

私は「これが広島です。いま、こんなに立ち直りました。でも建物は建て直せるけど人の命は二度と帰ってきません。特に子どもたちの命を助けてください」と申し上げました。

サミットを振り返って

サミットでのお話は疲れました。私が各国首脳陣の前でお話しをするという連絡はギリギリになって教えられたこともあり、準備する時間が十分ではなく大変でしたが、そんななかでも私にできることを精一杯、伝えることができたので最後はホッとしました。

核兵器の事実、これがリアリティーだということを少なくとも私はお話しできたし、首脳陣やパートナーの皆さんは、核兵器は決して使ってはならないという被爆者の強い思いを『聞き取られた』『感じとられた』と信じています。

『知る』ということが、戦争をやめさせるための最初の平和活動。それが、このたびのサミットだと思うんですね。少なくとも伝えたいと思っていたことを『知って』いただきました。

次は、彼らの番です。早く、とにかく早く、戦争を終わらせてください。今の私の願いです。

この度から C.COM を担当することになりました塩野です。広島県生協連合会に着任して早 4 か月が過ぎようとしています。今まで培った知識とは違い、日々いろいろな勉強、実践の繰り返しをしています。さて、C.COM88 では特集「平和について考える」と題して、また、ひろしまトークでは小倉桂子さんにお話をお聞きました。是非ご一読ください。78 年目の暑い夏がやってきます。今までとは違った視点で「平和について考える」日々を過ごしていきます。